

## 「パウロ、最高法院で取り調べられる」

2016年09月07日

使徒言行録 22章 30節～23章 5節 翌日、千人隊長は、なぜパウロがユダヤ人から訴えられているのか、確かなことを知りたいと思い、彼の鎖を外した。そして、祭司長たちと最高法院全体の召集を命じ、パウロを連れ出して彼らの前に立たせた。そこで、パウロは最高法院の議員たちを見つめて言った。「兄弟たち、わたしは今日に至るまで、あくまでも良心に従って神の前で生きてきました。」すると、大祭司アナニアは、パウロの近くに立っていた者たちに、彼の口を打つように命じた。パウロは大祭司に向かって言った。「白く塗った壁よ、神があなたをお打ちになる。あなたは、律法に従ってわたしを裁くためにそこに座っていながら、律法に背いて、わたしを打て、と命令するのですか。」近くに立っていた者たちが、「神の大祭司をののしる気か」と言った。パウロは言った。「兄弟たち、その人が大祭司だとは知りませんでした。確かに『あなたの民の指導者を悪く言うな』と書かれています。」

パウロはユダヤ人たちに弁明をしたが、聞く耳を持たない彼らは、「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしてはおけない」と叫び、怒りは収まらなかった。收拾できなくなった千人隊長はパウロを兵舎に連行し、騒ぎの真相を突き止めるために、鞭打って自白させようとした。鞭打たれそうになった時、パウロは「ローマ帝国の市民権を持つ者を、裁判のかけずに鞭で打つてもよいのですか」と言った。パウロは生まれながらにローマの市民権を持っていた。これを聞いた千人隊長は恐れた。市民権を持つ者を理不尽に扱うことは罪に問われるからである。パウロの鎖を外し、そして、ユダヤ人たちの訴えの理由を知ろうとして、イスラエルの最高法院を招集させた。最高法院はサドカイ派、ファリサイ派の宗教者たちと財力を持つ長老たち、71名で構成される最も権威ある議会である。

パウロは、議員たちの居並ぶ法廷に立たせられた。そして、彼らを見つめ「兄弟たち、わたしは今日に至るまで、あくまでも良心に従って神の前で生きてきました」と言った。パウロは被告ではなく、議員の一人であるかのように発言している。すると、大祭司アナニアは、パウロの近くに立っていた者たちに、彼の口を打つように命じた。パウロの恐れを知らぬ態度と発言に怒ったのであろう。ところが、パウロは大祭司に向かって、「白く塗った壁よ、神があなたをお打ちになる。あなたは、律法に従ってわたしを裁くためにそこに座っていながら、律法に背いて、わたしを打て、と命令するのですか」と言った。「白く塗られた壁よ」とは、内側は汚れているにもかかわらず、外側をきれいに見せる偽善を例えた言葉である。「神があなたをお打ちになる」とは神からの災いが下るという意味である。律法を無視して、口を打ち、言葉を禁じ、正当な裁判をしようとしめない大祭司に対する強烈な反論である。パウロの近くに立っていた者たちが、「神の大祭司をののしる気か」とたしなめた。パウロは、「兄弟たち、その人が大祭司だとは知りませんでした。確かに『あなたの民の指導者を悪く言うな』と書かれています」と応じている。大祭司は、決められた裾飾りを付けた外衣を着ている。大祭司とは知らなかったというパウロの言葉は理解できない。「民の指導者を悪く言うな」は出エジプト記 22章 27節の「あなたの民の中の代表者を呪ってはならない」という言葉からの引用である。

パウロの罪状が告発されているのではなく、パウロの方から、最高法院をかき回すような状況を引き起こしている。神の前で良心に従って生きてきた自負であろう。